

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-37496

(P2000-37496A)

(43)公開日 平成12年2月8日(2000.2.8)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード [*] (参考)
A 6 3 B 71/14		A 6 3 B 71/14	A 3 B 0 3 3
			F
			Z
A 4 1 D 19/00		A 4 1 D 19/00	P

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平10-239385

(22)出願日 平成10年7月23日(1998.7.23)

(71)出願人 597162019

マクサム通商株式会社

東京都世田谷区大原2丁目24番25号

(72)発明者 田中 業雄

東京都世田谷区大原2丁目24番25号

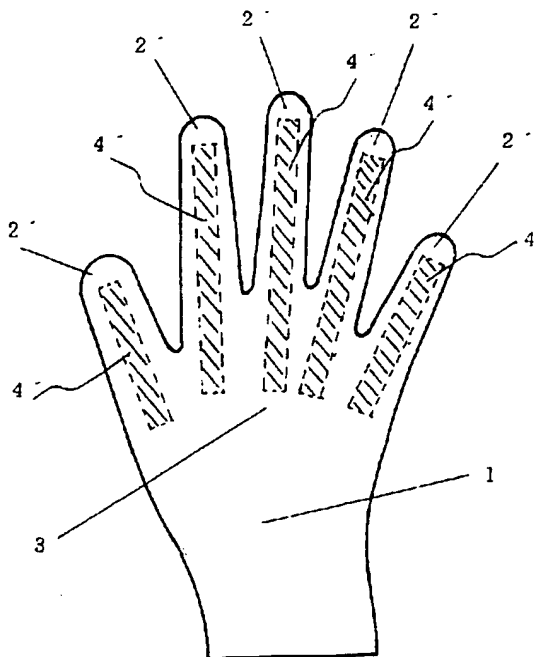
Fターム(参考) 3B033 AA29 AA30 AB02 AC03

(54)【発明の名称】 サイズピッタリグローブ

(57)【要約】

【目 的】 従来のスポーツ用手袋は大中小の分類を、メーカー各自が万人から集めたデータの集約数で概略のサイズを定めている。使用者の手指は各人各様にサイズが異なり、不足したり又は長すぎて余り垂れ曲がる事が多い。打撃器具に手袋を用うるのは、打撃時に皮膚を摩擦から保護する目的と同時に、器具を握る握力と密着性を強化するもので、握力は指先に集中する。その指先の状態が長さの不足で窮屈であったり、ダブツキの弛緩で把握力や密着が半減し目的を達しない場合多い。本案はこの欠点を解消するため、手袋の指部の適当な部位に平ゴムを縫合し、ゴムの伸縮を利用し長さを調整可能にした。

【構 成】 手袋1の指先部2と手の甲3の間に、適当な幅の平ゴム4を縫合し、ゴムの伸縮を利用し長さを調整するスポーツ用手袋。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 手袋1の指先部2と甲面部3の間に、適当な幅の帯状平ゴム4を指に沿って伸縮可能に縫合し、ゴムの伸縮で指の長短を調整するスポーツ用手袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、打撃器具を用いるスポーツの分野で使用される、グローブ即ち手袋である。

【0002】

【従来の技術】従来あるゴルフなどの手袋に、大小を示すサイズが添付して有るが、これらは各メーカーの自主規格で定めてあり、使用者の指サイズに適合する物は少なく、指先に余分が出て握力の低下となる事が多い。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のものには次ぎのような欠点があった。

(イ) 従来のものは、万人の手の甲や指の長さの平均数値から算出したサイズで作られている。

(ロ) 使用者の指サイズは各人各様に異なるため極めて合致する事は少なく、短くて窮屈である場合、長くて余分の出る場合などが多発する。

(ハ) 手袋を使用するスポーツは、器具を握る握力を指先に集中する事が重要であり、この理論が剣道の竹刀・野球のバット・ゴルフのクラブなどに用いられている。理論では用いられていながら、現実には手袋の先端が指先と合致せず、余ってダブツキ時には垂れ下がり、指先と手袋先端部とが適合せず充分な把握力を発揮出来ない場合が多い。

【0004】

【課題を解決するための手段】使用者各人が持っている把握力を充分に発揮するためには、手袋の素材である革膜による指の皮膚保護と同時に、革膜と指の密着が重要である。本案は従来の手袋が推算で算出し形骸化したサイズで区別されているために、発生する不都合を改善し、ゴムの伸縮性を利用して調整が出来るものとした。

即ち、手袋1の指先部2と手の甲部3との間に、適当な幅と長さの帯状平ゴム4を伸縮可能状態で手袋に縫合する。本案により従来の指と手袋とのサイズ不一致が簡単に調査出来るようになる。本発明は、以上の構成からなるものである。

【0005】

【作 用】手袋1の指先部2と手の甲部3の各々適当な位置の間に、指の幅の中心を基に適当な幅と長さの帯状平ゴム4を、伸縮が可能となるユルミを持たせた状態で縫合する。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明する。

(イ) 手袋1に手を入れ手袋の先端部分2に指が届くと、手の指が長い場合はゴムにより縮んでいる先端部分2が押し上げられ、指の長さに必要な長さに伸び、手袋の先端部分2と指先が適合する。

(ロ) 手袋1の脱着と緊締のためのマジックテープや手の甲部その他に従来と同様の緊縛用平ゴムを施す。

本発明は以上のような構造でこれを使用するときは、手袋1に手を通し指の長い使用者は、指先部2の先端に指が届くと伸縮により縮んでいる指先部2の先端が押し上げられ伸びて指に適合する。指が規格サイズより短い場合は、指先部2が短縮しているため現状のまま適合となる。いずれの場合でも長さ不足や余りのダブツキが発生する事はない。

【0007】

【発明の効果】従来品と比べ器具と指先の密着性が高まり把握力が強力となる。特に野球やゴルフのコントロールのグリップ効果がきわめて高くなる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の説明図である。

【符号の説明】

1は手袋	2は指の先端部
3は手の甲面部	4は帯状平ゴム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 手袋1の指先部2と甲面部3の間に、適当な幅の帯状平ゴム4を指に沿って伸縮可能に縫合し、ゴムの伸縮で指の長短を調整するスポーツ用手袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、打撃器具を用いるスポーツの分野で使用される、グローブ即ち手袋である。

【0002】

【従来の技術】従来あるゴルフなどの手袋に、大小を示すサイズが添付して有るが、これらは各メーカーの自主規格で定めてあり、使用者の指サイズに適合する物は少なく、指先に余分が出て握力の低下となる事が多い。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のものには次のような欠点があった。

(イ) 従来のは、万人の手の甲や指の長さの平均数値から算出したサイズで作られている。

(ロ) 使用者の指サイズは各人各様に異なるため極めて合致する事は少なく、短くて窮屈である場合、長くて余分の出る場合などが多発する。

(ハ) 手袋を使用するスポーツは、器具を握る握力を指先に集中する事が重要であり、この理論が剣道の竹刀・野球のバット・ゴルフのクラブなどに用いられている。理論では用いられていながら、現実には手袋の先端が指先と合致せず、余ってダブツキ時には垂れ下がり、指先と手袋先端部とが適合せず充分な把握力を発揮出来ない場合が多い。

【0004】

【課題を解決するための手段】使用者各人が持っている把握力を充分に発揮するためには、手袋の素材である革膜による指の皮膚保護と同時に、革膜と指の密着が重要である。本案は従来の手袋が推算で算出し形骸化したサイズで区別されているために、発生する不都合を改善し、ゴムの伸縮性を利用して調整が出来るものとした。

即ち、手袋1の指先部2と手の甲部3との間に、適当な幅と長さの帯状平ゴム4を伸縮可能状で手袋に縫合する。本案により従来の指と手袋とのサイズ不一致が簡単に調査出来るようになる。本発明は、以上の構成からなるものである。

【0005】

【作 用】手袋1の指先部2と手の甲部3の各々適当な位置の間に、指の幅の中心を基に適当な幅と長さの帯状平ゴム4を、伸縮が可能となるユルミを持たせた状態で縫合する。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明する。

(イ) 手袋1に手を入れ手袋の先端部分2に指が届くと、手の指が長い場合はゴムにより縮んでいる先端部分2が押し上げられ、指の長さに必要な長さに伸び、手袋の先端部分2と指先が適合する。

(ロ) 手袋1の脱着と緊締のためのマジックテープや手の甲部その他に従来と同様の緊縛用平ゴムを施す。本発明は以上のような構造でこれを使用するときは、手袋1に手を通し指の長い使用者は、指先部2の先端に指が届くと伸縮により縮んでいる指先部2の先端が押し上げられ伸びて指に適合する。指が規格サイズより短い場合は、指先部2が短縮しているので現状のまま適合となる。いずれの場合でも長さ不足や余りのダブツキが発生する事はない。

【0007】

【発明の効果】従来品と比べ器具と指先の密着性が高まり把握力が強力となる。特に野球やゴルフのコントロールのグリップ効果がきわめて高くなる。

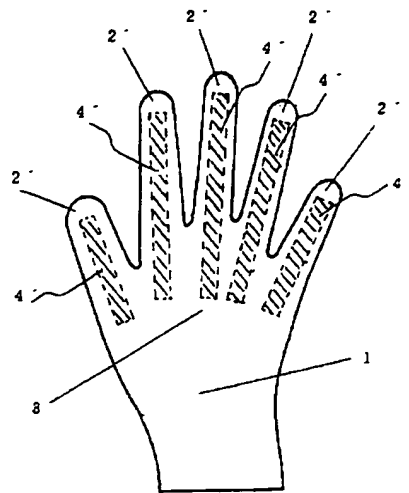
【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の説明図である。

【符号の説明】

1は手袋	2は指の先端部
3は手の甲面部	4は帯状平ゴム

【図 1】



【図 1】

